

令和2年度 赤穂市学校(園)評価 外部評価

学校園名	赤穂市立高雄小学校
------	-----------

1 本年度の学校(園)経営方針

「自ら学び ともに成長」 ～夢に向かって挑戦する子～ (1) 教職員の専門性を生かした特色ある学校づくり (2) 夢のある安心した学校づくり (3) 地域とともにある「コミュニティ・スクール」の推進
--

2 本年度の学校(園)重点目標

(1) 教職員の指導力、専門性の向上を図るための研修の充実 (2) 人権尊重の心を育てる人権教育の推進 (3) 児童の道徳性を高める心の教育の充実 (4) 基礎・基本の定着と、自ら学び考える力の育成 (5) 心の通い合う授業を基礎とした生徒指導の充実 (6) 安心して学べる環境づくり・人間関係づくり (7) 人間尊重の精神と共に生きる心を基礎とした特別支援教育の充実 (8) 地域とともにあるコミュニティ・スクールの推進 (9) 危機管理体制の整備と新たな防災教育の充実 (10) 地域と連携した環境教育・福祉教育等、課題教育の充実
--

総合的な学校園関係者評価

<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を進める中で、授業や行事等大変不自由な中でも子ども達の安全を最優先に取り組んでもらったことに感謝している。保護者アンケートにもある「子どものことで気になることを学校に相談できる」の割合が高く、とても良いことである。学校統廃合の話も自治体によっては進んでいるが、高雄小学校運営協議会としても統廃合断固反対の意志を示し、地域の学校として今後も関心を持って見守り、協力したい。</p> <p>地域の子ども見守り隊や学習ボランティアの協力により、子ども達の学習や成長をたくさん目の見守ることが出来ており、子ども達は安心して学校生活を送ることが出来ている。学習においては、朝学習の充実や教職員相互の授業研究の取組により、基礎基本の定着を図りつつ、小規模校だからこそ安心して自己表現できる人間関係作りや、一人一人が表現し活躍できる機会の設定、1桁人数の学級でもコミュニケーション力を育成するための縦割り活動の充実などに力を注ぎ、児童に自信を持たせていく必要がある。小規模校で学ぶことの良さもそれができるところにある。小規模校ならではの教育にあたっていただきたい。</p>

3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

観点 (重点目標)	評価項目 (学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	本年度改善の方策	自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
	項目	指標						
(1)教職員の 資質向上・ 組織運営	項目	教育の専門家としての実践的指導力の向上	A	A	(1)研修において地域・保護者との信頼関係を築くことのできる総合的人間力を高める。 (2)よりよい学級経営と授業力の向上をめざし指導方法の工夫や改善を図り教育目標の達成度の検証方法を考える。	◎	◎	○人権教育実践研究会に向け、取り組んできたが紙面発表となった。各学年で研究授業に取り組み、若手教員の授業力アップにつながった。 ○人権教育を基盤とした「主体的・対話的な深い学び」を実現するため、向かう方向を明確にしながら取組を進めていく。環境整備にも力を入れる。
	指標	実践的指導力を向上させるための校内研修が適切に実施されている。	A					
	項目	学校の教育目標達成のための学校運営・責任体制の整備	A					
	指標	よりよい学校になるためにプロ意識を持ち、目標を掲げて職務・研修に取り組んでいる。	A					
(2)人権教育	項目	OJTの推進	A	A	(1)教師の人権意識を高める研修会、家庭と連携した人権教育の在り方についての講座をもつ。 (2)特別活動を始めとする学校教育全体で、自己有用感を高める教育活動を充実させる。	◎	◎	○学校と家庭が連携して人権教育を進めていくための「子育て講座」が新型コロナウイルス感染症対策で中止になり、家庭への啓発機会が少なくなった。 ○ なかよし班をはじめとする縦割りの活動では、常に最高学年が手本を示し、目標や振り返り等を言葉で表現する機会を多くもつ。
	指標	互いに連携し学級経営や授業について課題解決するなど学び合う体制ができている。	B					
	項目	人権尊重の心を育む	A					
	指標	児童一人一人を大切に授業、命と人権を守りいじめや不登校を解決する取組に努めている。	A					
	項目	自尊感情を育てる	A					
	指標	日々の教育活動やふれあいの中で、自分に自信の持てない児童に、自尊感情を育てる指導がなされている。						
	項目	自己実現をめざす	B					

	指標	児童に、学習で学んだ事を自分の生活にどう活かせるか考えさせようとしている。						
(3)道徳教育	項目	全教育活動の中での道徳性の育成	A	A	(1)すべての教育活動で豊かな心（道徳心・感性）を培う取組を進める。 (2)教科書以外の副読本や地域教材も活用して道徳の時間の充実を図る。 (3)命の大切さ、社会での規律やマナーについては家庭とも連携し、道徳的実践を伴う指導に取り組む。	◎	◎	○あいさつや社会規律、マナーを、教育活動全体、また道徳の時間にも指導する。なぜ、それが必要なのかということが児童に分かるよう心に響く指導を目指す。 ○教材の話で終わらず、自分に返して「これから自分はどうするのがよいか」を考える道徳の授業を工夫する。
	指標	教育活動の全領域において道徳性を養うように計画している。						
	項目	道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる取組	B					
	指標	道徳科において、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるため、心に響く授業を心がけている。						
	項目	互いを認め合う人間関係づくり	A					
	指標	お互いのよさを認め合う人間関係づくりに心がけ、道徳的実践力を育成している。						
(4)基礎・基本の定着と自ら学び考える力の育成	項目	指導内容・指導方法の工夫、改善	A	A	(1)研修会に積極的に参加し、学習形態や授業展開を工夫して、子ども同士の関わりや授業の深化を図る。 (2)新学習システム教員の役割を見直し、きめ細やかに個の基礎基本のつまずき、到達度の把握を行い補充する。 (3)宿題の出し方を工夫し、家庭と連携した自主学習に取り組めるようにする	◎	◎	○Tタイム（朝の基礎基本の時間）の有効活用をする。毎日の小さな積み重ねで力をつけていく。 ○担任だけではつまずきの解消は難しいため、新学習システム加配教員との連携を図る。担任が見通しをもってプリント学習等の計画を立てる必要がある。 ○放課後子ども教室での宿題の仕方が課題。指導員と連携し、落ち着いた環境で宿題をすること、時間の再確認を行い、連携して取り組んでいく。
	指標	基礎基本の定着をめざし、Tタイムの時間を活用している。						
	項目	個に応じた指導の時間確保	B					
	指標	新学習システムを推進し、個に応じた指導を工夫している。						
	項目	主体的・対話的に学びを深めようとする授業の工夫	A					
	指標	学習課題について、主体的・対話的に学びを深めるための授業研究を進めている。						
(5)生徒指導	項目	好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級づくり	A	A	(1)生活指導委員会を毎月定期的開催し、月目標の振り返りと次月につながる振り返りを行う (2)温かい人間関係を築くとともに、問題が発生した場合には、組織として対応できるよう日頃から情報共有と意思統一を図っておく。	◎	○	○アンケート「学校が楽しい」の項目が96%の達成率で充実した学校生活を送っていることがうかがえる。 ○いじめ問題に保護者も地域も関心が高い。特に保護者は問題行動や不登校に対して心配しているので、保護者の不安を取り除くとともに、不登校傾向の児童には粘り強く家庭や諸機関と連携して、改善を図る取組が必要である。
	指標	児童の生活を見つめ直し、好ましい人間関係・豊かな集団生活に向けて適時性のある指導を行っている。						
	項目	生徒指導の機能を生かした授業づくり	B					
	指標	自己決定の場や自己存在感を与える授業、共感的人間関係を育む授業の工夫により、児童の指導能力を育てている。						
	項目	いじめ問題への対応	A					
	指標	児童一人一人の実態を的確に捉え、いじめ対応マニュアルに基づき、組織的に指導を行っている。						
(6)安心して学べる環境づくり	項目	学校安全の徹底と営繕	A	A	(1)安全点検を毎月行い、危険箇所の早期改善や生活環境の整備に取り組む。 (2)新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、よりよい環境整備を行う。	◎	◎	○安全点検が多く目で見えている。小さな危険箇所も市に連絡し、修繕等していただく。 ○登下校の問題が毎年ある。ミニ地区集会で問題を出しやすくしているが、下学年の意識も高めていきたい。
	指標	危機管理マニュアルをもとに、安全点検や安全指導が行われている。						
	項目	学習・生活の場として適正な学習環境の管理整備	A					
	指標	児童によりよい学習・生活環境になるよう、計画的に整備ができています。						
(7)特別支援教育	項目	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	A	A	(1)啓発活動(保護者・地域への情報提供と情報収集)を計画的に行う。 (2)関係機関との連携を図り、組織として対応する。 (3)特別支援の考え方を全学年の日常生活や授業に取り入れる。	◎	◎	○医療ケアの必要な子どもが昨年度から転入した。訪問看護、市教委等各機関との連携が今後も必要。 ○子ども、保護者や地域への啓発活動については、共通理解を図り、繰り返し地道に取り組んでいく。 ○特別支援児童だけでなく、どの児童にも見通しがもて、分かる授業や環境の工夫を継続する。
	指標	一人一人の教育的ニーズに応じた指導がなされている。						
	項目	適切な就学指導	A					
	指標	校内委員会を設け関係機関との相談を実施し、適切な就学指導に努めている。						
	項目	指導方法や指導体制の充実	A					
	指標	校内委員会・特別支援教育研修をもつことができています。						
(8)地域とともにあるコミュニティ・スクールの推進・家庭地域	項目	家庭や地域への情報発信	A	B	(1)視野の広い学校運営協議会委員と共に開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域・関係諸機関等との連携をさらに充実させる。 (2)情報の発信内容の充実とメールシス	○	○	○「学校通信」「学年便り」は、地域・保護者と学校との情報の共有化ができる。ホームページはURLコードでPRできた。 ○学校と保護者・地域が協働しながら子供たちの成長を支えるコミュニティ・スクールであるよう、今後ともしつ
	指標	学校や学級の教育活動が、学校通信、学年だより、学校HP等により家庭・地域に理解されている。						
	項目	学校運営協議会を活用した学校経営の推進	B					
	指標	学校運営協議会を適切に開催し、授業参観・行事・オープンスクールにも参加を得て、学校経営に生かしている。						

・読書活動 ・校種間連携	項目	家庭と連携した読書習慣の確立と読書指導の充実	B	テムによる効果的な情報発信を行う。 (3)学習と関連付けた家庭での読書を推進し、日を決めて取り組ませる。 (4)行事・学習等、地域の子として成長するための異校種連携に取り組む。			かり連携して進める。 ○幼少期の読書習慣が本好きの児童を育てる。幼稚園と連携したノーメディア・読書デーを充実させる。 ○幼稚園と意思統一して人権教育に取り組んでいく。
	指標	「早寝・早起き・朝ごはん」「ノーメディア・ノーゲーム」「家庭読書」の習慣を家庭と連携して育てている。					
(9)危機管理体制の整備 ・防災教育	項目	家庭・地域社会及び関係諸機関と連携した危機管理体制の推進	B	B (1)保護者・地域と連携した講演会、教員の実地訓練を計画し、防災・防犯活動に取り組む。 (2)「命の教育」や事故防止と交通マナーの徹底を図る。 (3)危機管理能力を高める研修を行う。	○	◎	○空調機器が設置された。熱中症対策等健康面でに大いに役立つとともに、夏冬の教室環境が改善され、学習効果も上がると思われる。 ○児童数が年々減るため、保護者・地域にもいっそうの連携を依頼して、不審者対応など登下校の安全確保に今後ともしっかりと取り組んでいく。
	指標	学校と家庭が連携して危機管理意識を高め、安全意識の向上に努めている。					
	項目	防災教育・安全教育の実践	A				
	指標	総合的な学習の時間・学級活動・防災訓練などで防災の意義を理解し意識が高まっている。					
(10)地域と連携した課題教育の充実 ・環境教育 ・福祉教育 ・国際理解教育 ・キャリア教育 ・食育	項目	児童の主体性を生かした自然学校・環境体験事業の実施	A	A (1)児童の主体性をさらに育む体験の内容の充実に取り組む。 (2)課題教育については、地域の特性を生かした学習单元の中に明確な目的のある体験活動を位置づける。 (3)食育・保健・メディアの使い方研修会を行い、健康への意識を高める。 (4)中学校区で連携し、食や睡眠について改善する。	○	○	○水辺づくり協議会や学習ボランティア等、地域の方の長年の取組の成果で、河川敷の環境の良さが県にも認められた。そのすばらしい自然環境を生かし、子ども達に科学の視点を身に付けさせる取組を進める。 ○高齢化の進む地域であるので、共生社会に向けた一連の問題解決的な学習として取り組む必要がある。 ○長時間のメディア使用が健康に及ぼす害について、高学年の児童が関心をもって学んだ。医療面からの講師も招聘したい。 ○食や睡眠が体力向上、学力向上の原点である。学校保健推進計画のもと、生活習慣に関する指導を充実させるとともに保護者の意識改革が望まれる。 ○スマホ所持について意見をもっておく必要がある。
	指標	児童が主体的に体験活動に取り組むことができるように計画・実行している。					
	項目	環境教育の推進	A				
	指標	地域に学び、ふるさとの自然環境を守ろうとする態度や心情を育てている。					
	項目	高齢者や障がいのある人への理解を深める指導の推進	A				
	指標	福祉体験を取り入れ、高齢者や障がいのある人等への理解を深める指導に取り組んでいる。					
	項目	コミュニケーション能力の育成	A				
指標	ALTとのふれあいや対話アートマイル事業により主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。						
項目	キャリア教育の推進	B					
指標	児童が自己の成長や変容を把握し、生活の改善に生かしたり将来の生き方を考えたりするための工夫をしている。						
項目	食育推進体制の充実	B					
指標	食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるように、指導の充実に取り組んでいる。						

自己評価における特記事項

評価資料の数値は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。

4 よくできた 3 できた 2 あまりできなかった 1 できなかった

自己評価資料は、自己点検の平均4～3.5をA 3.4～3をB 2.9～2.5をC 2.4以下をDとしている。

職務が異なる場合は、評価項目がすべて当てはまるとは限らない。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎日の検温、消毒、手洗いの徹底
- ・声を出すことや間違えることへの羞恥心や恐れを取り除き、安心して自己表現できるようにするための取組
- ・いじめ未然防止のための組織強化・家庭との連携強化
- ・児童数減少による見守り隊負担増加の解消
- ・コミュニケーション力を育てる縦割り活動の充実
- ・GIGAスクール構想の実践と一人一台タブレットの活用と充実
- ・基礎学力の定着を図るために、朝の学習タイム（Tタイム）の充実
- ・特別支援教育の充実を図るための研修・研究の充実